

2015 年度にボランティア・NPO 活動センターがかかわった復興支援の取り組みについて、10 月活動分までまとめました。

2015 年度の特徴といえば、ボランティアバスに複数回参加している学生が中心となって、震災を考えるための自主的な動きが出てきたことです。学内で東日本大震災に関する意識調査などに取り組み始めました。

また、2015 年度は、地元の皆さんとのスケジュール調整の結果、2 回のボランティアバス運行となりました。3 回から 2 回実施へと運行回数は減りましたが、東日本大震災復興支援ボランティア募集説明会は過去最高の参加者になりました。学生の関心はまだまだ高いと感じています。国内外で頻発する自然災害に対しても、関心を持って行動に起こす学生が増え、ネパールの大地震の被災者支援のための募金活動などにも取り組みました。

主な事業の詳細について、時系列に紹介します。



## ■ 第 1・2 回 復興支援ボランティア ■

実施日／場所	第 1 回：2015 年 8 月 12 日（水）～ 16 日（日）4 泊 5 日 宮城県石巻市雄勝 第 2 回：2015 年 10 月 9 日（金）～ 12 日（月）3 泊 4 日 宮城県石巻市
参加人数	第 1 回：合計 32 名（学生 30 名／引率 2 名） 第 2 回：合計 33 名（学生 30 名／引率 3 名）

2015 年度は復興支援のためのボランティアバスを 2 回運行し、通算で 15 回になりました。現在では、ボランティア活動をするだけでなく、震災についての学びと防災教育の視点を加えるようにしています。

2015 年度も 4 月に伊達センター長と平井課長、竹田コーディネーターが宮城県石巻市雄勝を訪ね、地元の関係者にヒアリングを実施し、ボランティアニーズがまだあることを確認した上で今年度の復興支援ボランティア実施を決定しました。

地元の方と相談した結果、第 1 回目は、お盆に実施される「雄勝湾灯籠流し」、第 2 回目は「おがつ店こ屋街 4 周年記念ホタテまつり」の前日準備及びブース出展を中心に活動することを決定しました。

第 1 回から 2 回は、それぞれが全く別の活動を行いますが、どの回も参加学生が地元の方達や復興支援に関わっている方から話を聴く機会を設け、「震災」について学び、その上で活動を行い、「自分には何が出来るのか」を考えても

らえるようにプログラム設計を行っています。

参加者募集にあたっては、昨年度と同様に、学生・教職員に対し、深草・瀬田・大宮の全キャンパスでコーディネーターが募集説明会を実施し、活動趣旨・リスクを十分に理解した上で参加するように呼びかけました。

今年度、第 1～2 回の募集説明会には計 204 人が参加し、その内の 101 名の応募がありました。

※提出物：参加申込書、活動誓約書・保証人同意書

※参加費：2 万円（食費、宿泊費、保険代込）

第 1 回は、雄勝湾灯籠流しのお手伝いの作業全般他に、語り部さんのお話を聴きながら、石巻中心部の門脇地区を視察しました。また、一般社団法人雄勝花物語の徳水先生から、雄勝小学校の跡地で、発災当時の説明を受けながら実際に避難した経路を歩くなど、防災教育を受けると共に、雄勝ローズファクトリーガーデンの整備活動なども行いました。石巻市立雄勝病院、

大川小学校の跡地なども訪問し、慰霊碑に手を合わせました。

第2回は、『おがつ店こ屋街4周年記念ホタテまつり』での活動をメインに活動しました。ホタテ祭りでは、龍谷大学のブースを出店し、子ども達を遊ばせるコーナー（輪投げやミサガ、マグネット作りなどのクラフト体験等）と無料の喫茶コーナーを行い、お茶を飲みながら地元の皆さんと交流しました。その他にも会場設営、抽選会場係、ホタテ釣りなどの祭り全体の運営補助も行いました。

それ以外の活動では、一般社団法人雄勝花物語の防災教育に参加し、「小さな命の意味を考える会」代表の佐藤 敏郎氏と一緒に大川小学校を歩きながら津波被害状況についてお話を聴き、徳水 利枝氏からは雄勝小学校跡を案内していただき、実際に子ども達が避難した経路を歩く防災教育を受けました。

#### ●第1回活動スケジュール

- 8/12 移動
- 8/13 大川小学校跡地訪問  
雄勝小学校跡地での防災教育  
ふりかえり
- 8/14 灯籠の作り  
供養花火をあげる広場の清掃  
雄勝湾灯籠流しへ参加
- 8/15 流した灯籠の回収  
地元の人からお話を聞く  
雄勝ローズファクトリーガーデンの整備  
ふりかえり
- 8/16 京都駅と深草キャンパスにて解散



#### ●第2回活動スケジュール

- 10/9 移動
- 10/10 雄勝花物語の防災教育プログラムに参加。大川小学校跡地、雄勝ローズファクトリーガーデン、雄勝小学校跡地を訪問。それぞれの場所で、お話を聞くその後、「おがつ店こ屋街4周年記念ホタテまつり」の前日準備を手伝う
- 10/11 おがつ店こ屋街4周年記念ホタテまつりに参加し、龍大ブースを出店。  
片付け  
ふりかえり
- 10/12 瀬田キャンパス、京都駅、深草キャンパスにて解散



## 第1回参加学生の声

- ・ボランティアから帰宅した後に、「どこに行っていたの?」と聞かれた友人に「東北に行っていた。」と話すと友人からは「何をしに、東北まで行っていたの?」という返事がくる現状でした。その瞬間、もうあの震災は日本で起こったのではないような出来事として、扱われているように私は感じました。だからこそ、もっと雄勝を知って、もっと雄勝のことを理解したうえで、まだ足を運んだことのない人々や忘れていている人々にお話が少しでもできればいいなと思います。
- ・今回で3回目になりますが、悪い意味で被災地の風景に慣れてしまった気がします。大川小学校を訪問したり、津波の映像などの形あるものを見たりすると、未だに心が痛んでしまいます。しかし、店こ屋商店街に向かうまでの道で何も無い草だけが生えている場所を見たとき、そこに家や店があったということを忘れていました。元から何も無いところだったと思ってしまっている自分がいて、震災や津波を風化させないよう周りにも伝えていきたいと考えていたはずなのに、自分自身が被災地のことを分かっていない気がしました。それがとても悔しくてショックでした。

## 第2回参加学生の声

- ・2日目に聞いた佐藤さんの話が最も印象的でした。佐藤さんの話から人ってこんなにも人を好きになれるのか、こんなにも人を憎めるのか、こんなにも強くなるのか、こんなにも弱く脆いのか、こんなにもいやらしいのかと、人の素晴らしさ、人の怖さを学びました。
- ・私自身は20年前の阪神淡路大震災の3日前に兵庫県で生まれ、病院にいた時に被災しました。もちろん当時のことは憶えていませんが、今生きているのは間違いなく周りの人たちの支えがあって生かされたからだと思います。高校生の時にはある先生から、「震災の年に生まれたあなたたちには使命がある。」と言われましたが、その使命が何か、今まで理解できませんでした。しかし、今回のボランティアを通して私の使命は、被災地の今を、住民の声を受け取って他の人に繋げる。伝えることなのだろうと考えました。